

研究史

Tuplin, C.J. (1993), *The Failing of Empire*, Stuttgart.

レウクトラ＝帝国主義政策の時代の終焉
前 370/69 年のアゲシラオスのアルカディア侵攻
ラコニア侵攻を防げず
クロムノスの戦い
プレイウス攻防
タブランの問題点：タイムラグの問題

Buckler, J. (1980), *The Theban Hegemony, 371-362 BC*, Cambridge.

寡頭派への保証の問題と民主派のスパルタへの恐れ
念
エパメイノンダスのラコニア侵攻の効果
→同盟諸国の防衛は自前で
同盟諸国との利益共同体の消滅
→コリントスをして休戦に向かわせる
バックラーの問題点：寡頭派を認めるエパメイノンダス外交の評価

Cartledge, P. (1987), *Agisilaos and the Crisis of Sparta*, Baltimore.

市民人口の問題とレウクトラの打撃
タイムラグの存在←心理的要因
同盟諸国の厭戦気分の蔓延
前 369 年にはスパルタの無力は秘密ではなかった
スタシスと民主派／亡命者との結びつきに対する警戒心

Salmon, J. B. (1984), *Wealthy Corinth: A History of the City to 338 B.C.*, Oxford.

同盟国の典型例をコリントスに見る
ボイオティアー民主革命と民衆に対する警戒
スパルタとのつながりが体制保証
スパルタの権威と影響力を無視できず

David, E. (1986), *Sparta between Empire and Revolution (404-243 B.C.): Internal Problems and their Impact on Contemporary Greek Consciousness*, Salem.

寡頭派と民主派の党争
富裕者と貧民との対立
デーヴィッドの問題点：アルゴスの事例適用に問題